



CMS の使用方法

この章では、Catalyst 3750 スイッチの Cluster Management Suite (CMS) について説明します。

- [CMS の概要 \(p.3-2\)](#)
- [CMS の設定 \(p.3-8\)](#)
- [CMS の表示 \(p.3-12\)](#)
- [次の作業 \(p.3-17\)](#)

他のCatalystスイッチで使用されるブラウザベースの管理ソフトウェアについては、該当するスイッチのマニュアルを参照してください。CMS の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

このリリースの新しいCMS 機能のリストについては、CMS メニュー バーで **Help > What's New** を選択します。

クラスタ構成およびコマンド スイッチまたはメンバー スイッチになる Catalyst スイッチについては、このスイッチのリリース ノートを参照してください。

CMS の概要

CMS は、スイッチ クラスタおよび各スイッチを管理するために、Netscape Communicator または Microsoft Internet Explorer などのウェブ ブラウザから、次の機能を提供します。

- 同時に表示できる、ネットワークの Front Panel View および Topology View (図 3-7 [p.3-15] および図 3-8 [p.3-16] を参照)
- 設定オプションおよび管理オプションにアクセスできる、メニュー バー、ツール バー、および機能バー (図 3-6 [p.3-15] を参照)
- CMS タスクを実行するための、高いレベルの概念と手順について紹介する総合的なオンライン ヘルプ
- いくつかの複雑な設定オプションの表示を制御する、対話形式モード (ガイド モード、エキスパート モード、およびウィザード)
- 設定オプションに対する 2 つのアクセス モード スイッチの設定を変更することができる ユーザ向けの読み取り書き込みアクセス、およびスイッチの設定について閲覧のみ可能なユーザ向けの読み取り専用アクセス

Front Panel View

Front Panel View では、クラスタ内の特定のスイッチ セットの Front Panel イメージが表示されます。このビューでは、複数のポートまたはスイッチを選択して同じ値で設定することができます。

詳細については、[CMS の表示 \(p.3-12\)](#) を参照してください。

Topology View

Topology View では、スイッチ クラスタ、コマンド スイッチ、クラスタ メンバー、クラスタ候補、クラスタに参加する条件を満たしていない近接デバイス、およびリンク タイプを表すアイコンを使用するネットワーク マップを表示します。リンク レポートおよびリンク グラフの形式でリンク情報を表示することもできます。

このビューは、コマンド スイッチから CMS が起動されたときのみ利用できます。

詳細については、[CMS の表示 \(p.3-12\)](#) を参照してください。

CMS メニュー バー、ツールバー、機能バー

スイッチおよびスイッチ クラスタ設定用の設定およびモニタ オプションは、メニューバー、ツールバー、および機能バーで利用できます。

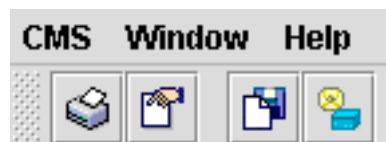
- メニューバー (図 3-1 を参照) は、単一のスイッチおよびスイッチ クラスタを管理する次のオプションを提供します。
 - CMS 印刷オプションの選択、対話形式モードの選択、CMS Preference の表示、PC またはワークステーションへの CMS クラスタ情報の保存、および機能バーの表示または非表示



(注) CMS を起動するごとに、CMS がブラウザにダウンロードされます。PC またはワークステーションに CMS を永久的にインストールすることにより、CMS のロード速度を速めることができます。**CMS** から、> **Installation and Distributions** を選択して、**Install** をクリックします。CMS はローカルにインストールされるので、次の起動時にはより高速でロードされます。

- ウィンドウ 現在オープンである CMS ウィンドウから選択
- ヘルプ オンライン ヘルプの起動

図 3-1 メニューバー



- ツールバーにより、スイッチとクラスタの設定オプションを一般的に使用するためのボタン、また凡例およびオンライン ヘルプなどの情報ウィンドウが提供されます。表 3-1 に、ツールバーの左から右に表示されるツールバー オプションを示します。

表 3-1 ツールバーのボタン

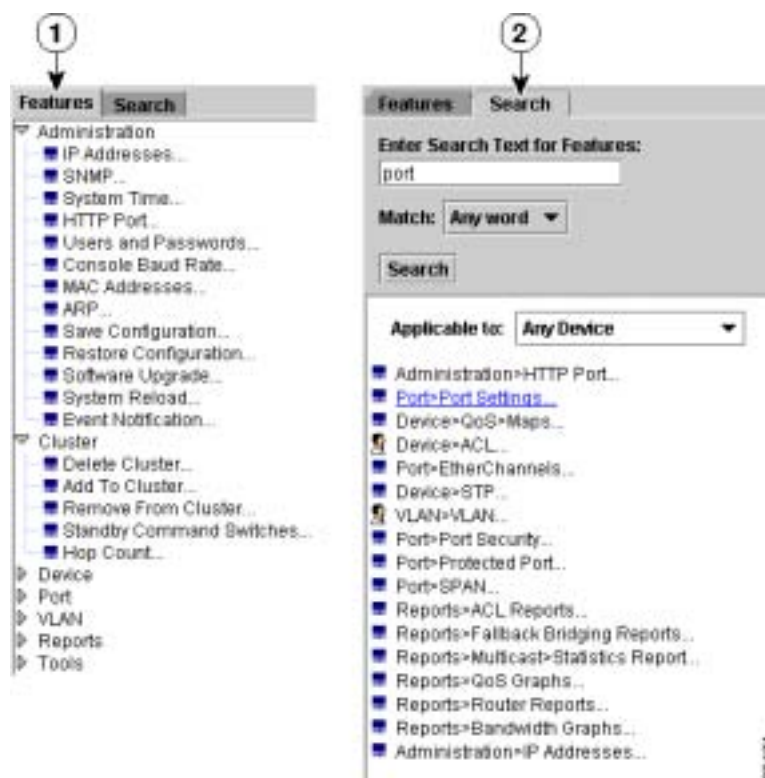
ツールバーのオプション	アイコン	機能
Print		CMS ウィンドウまたはヘルプ ファイルを印刷します。
Preferences ¹		ポーリング インターバル、CMS 起動時に開くビュー、管理上のシャットダウンポートのカラーなど、CMS 表示プロパティを設定します。
Save Configuration ²		フラッシュ メモリにクラスタまたはスイッチの設定を保存します。
Software Upgrade ²		クラスタまたはスイッチのソフトウェアをアップグレードします。
Port Security ¹		スイッチのポート パラメータを表示および設定します。
VLAN ¹		VLAN メンバーシップを表示して、VLAN にポートを割り当て、管理モードを変更します。
Inventory		デバイス タイプ、ソフトウェア バージョン、IP アドレスなど、スイッチに関する情報を表示します。
Refresh		最新のステータスで各ビューを更新します。
Front Panel		Front Panel View を表示します。
Topology ³		Topology View を表示します。
Topology Options ³		Topology View に表示される情報を選択します。
Save Topology Layout ^{2 3}		Topology View のクラスタ アイコンの配置をフラッシュ メモリに保存します。
Legend		アイコン、ラベル、およびリンクの凡例を表示します。
Help For Active Window		アクティブな開いているウィンドウのヘルプを表示します。アクティブなウィンドウから Help をクリック、または F1 キーを押すことによって表示できます。

1. 読み取り専用モードでは利用できません。読み取り専用および読み取り書き込みアクセス モードの詳細については、[権限レベル \(p.3-6\)](#) を参照してください。
2. 読み取り専用モードでは、このメニュー オプションの一部のオプションは利用できません。
3. クラスタ管理セッションでのみ利用できます。

- 機能バーは、クラスタのデバイスで使用できる機能を示します。機能バーは、デフォルトで標準モードです。このモードでは、機能バーが常に表示されています。機能バーの幅は、増減が可能です。自動非表示モードでは、カーソルを CMS ワークスペースの左端に移動した場合にのみ、機能バーが表示されます。
 - 機能バーをイネーブルにするには、**CMS** から **> Feature Bar** をクリックして、**Standard Mode** を選択します。
 - 機能バーを非表示にするには、**CMS** から **> Feature Bar** をクリックして、**Autohide Mode** を選択します。

図 3-2 に、サンプルのクラスタで使用できる機能を示します。

図 3-2 機能バーおよび検索ウィンドウ



1	機能バー	2	検索ウィンドウ
---	------	---	---------



(注) 機能バーには、クラスタのデバイスでサポートされる機能だけが、表示されます。

クラスタで使用できる機能を検索するには、**Search** をクリックして、機能名を入力します (図 3-2 を参照)。

アクセスモードは、CMS 機能の Availability に影響します。一部の CMS 機能は、読み取り専用モードで使用できません。アクセスモードの CMS への影響については、[権限レベル \(p.3-6\)](#) を参照してください。

オンライン ヘルプ

CMS は、設定の理解および実行、CMS ウィンドウからの作業のモニタを支援するために、総合的なオンライン ヘルプを提供します。

オンライン ヘルプは、クラスタのデバイスがサポートしている機能で使用できます。クラスタメンバーによって、トピックの情報が異なる場合があります。この場合、右のパネルにすべてのバージョンのトピックが含まれ、それぞれが適用するメンバーのホスト名でラベル付けされています。

オンライン ヘルプには、次の機能があります。

- 機能固有のヘルプにより、機能の基本的な情報および概念が提供されます。
- ダイアログ固有のヘルプにより、タスクを実行するための手順が提供されます。
- オンライン ヘルプのトピックの索引
- 用語集：オンライン ヘルプで使用されている用語を解説しています。

設定モード

CMS の対話形式モードは、エキスパート モードまたはガイド モードに変更できます。エキスパートモードでは、機能のオプションの設定を行う設定ウィンドウを表示します。ガイド モードでは、1 つずつ手順を追いながら各機能のオプションを紹介し、パラメータについて説明します。ウィザードもまた、いくつかの設定オプションに利用できます。ウィザードは利用できるオプションがほとんどないこと以外は、ガイドモード設定ウィンドウと同じです。

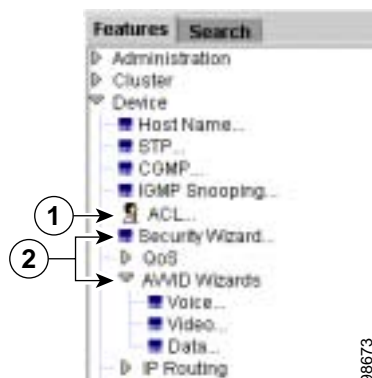
ガイド モード

ガイド モードは、1 つずつ順に設定作業を実行したいユーザ向けです。このモードは、すべての機能で利用できるわけではありません。ガイド モードを利用可能にする機能の隣に、人のアイコンが表示されます（[図 3-3](#) を参照）。

Guide Mode をクリックし、ガイド モードをサポートする機能を選択すると、CMS がこの機能に特有のパラメータおよびこのパラメータに関する情報を表示します。機能を設定するには、ガイドモードの各ステップで CMS が要求する情報を入力し、最後のステップで **Finish** をクリックします。**Cancel** をクリックすると設定作業を終了できます。この場合、変更は適用されません。

Guide Mode を選択したにもかかわらず、**Expert Mode** を使用する場合は、メニュー バー、ツールバー、またはポップアップメニューからオプションを選択する前に、**Guide** をクリックします。設定オプションを選択したあとで対話形式モードを変更しても、別の設定オプションを選択するまでモード変更は有効になりません。

図 3-3 ガイドモードとウィザード



1	ガイドモードアイコン	2	ウィザード
---	------------	---	-------

スイッチのアクセスレベルが読み取り専用の場合は、ガイドモードは利用できません。読み取り専用アクセスモードの詳細については、[権限レベル \(p.3-6\)](#) を参照してください。

エキスパートモード

エキスパートモードは、ある機能のパラメータフィールドをすべて1つのCMSウィンドウに表示します。**Help** ボタンをクリックすると、パラメータフィールドについての情報が表示されます。

Expert Mode を選択したにもかかわらず、**Guide Mode** を使用する場合は、メニューバー、ツールバー、またはポップアップメニューからオプションを選択する前に、**Guide** をクリックします。設定オプションを選択したあとで対話形式モードを変更しても、別の設定オプションを選択するまでモード変更は有効になりません。

ウィザード

ウィザードでは、ガイドモードと同様に、設定作業を1つずつ順に実行します。ガイドモードと異なるのは、ウィザードはすべての機能オプションの情報入力を要求するのではなく、最小限の情報を入力を指示します。残りのオプションについては、デフォルト設定を使用してデフォルト構成をセットアップします。

名前に **Wizard** が付く機能を選択すると、その機能に関するウィザードが起動します ([図 3-3 \[p.3-6\]](#) を参照)。

ウィザードは、いくつかの機能または読み取り専用アクセスレベルでは利用できません。読み取り専用アクセスモードの詳細については、[権限レベル \(p.3-6\)](#) を参照してください。

権限レベル

CMS には、設定オプションに対する2つのアクセスレベルがあります。読み取り書き込みアクセスおよび読み取り専用アクセスです。ご使用の権限レベルが分かれば、クラスタにアクセスするのに使用する URL にそのレベルを指定します。たとえば、権限レベルが 13 の場合は、次の URL を入力します。

`http://ip_address/level/13`

サポート対象権限レベルは、0 ~ 15 です。

- 権限レベル15では、CMSに読み取り書き込みアクセスを行います。これはデフォルト設定です。

- 権限レベル 1 ~ 14 では、CMS に読み取り専用アクセスを行います。スイッチまたはクラスタの設定を変更する CMS ウィンドウ、メニューバー、ツールバー、およびポップアップメニューのオプションは、読み取り専用モードでは表示されません。
- 権限レベル 0 では、CMS へのアクセスが拒否されます。

CMS にアクセスする場合、権限レベルを指定しないと、スイッチは権限レベルが 15 に設定されているかどうかを確認します。権限レベルが 15 でない場合は、CMS へのアクセスが拒否されます。権限レベル 15 が設定されている場合は、読み取り書き込みアクセスが許可されます。したがって、権限レベルが 15 である場合は、権限レベルを入力する必要はありません。0 を入力すると、CMS へのアクセスが拒否されます。



(注) TACACS+ または RADIUS サーバ経由で CMS にアクセスするには、権限レベルが 15 である必要があります。

権限レベルの詳細については、[スイッチへの不正アクセスの防止 \(p.9-2\)](#) および [複数の権限レベルの設定 \(p.9-8\)](#) を参照してください。

クラスタ内の古いスイッチへのアクセス

クラスタに旧バージョンのソフトウェア リリースが稼働する次のメンバー スイッチがあり、このようなメンバー スイッチに読み取り専用でアクセスする場合、これらのスイッチの設定ウィンドウには不完全な情報が表示されることがあります。

- Cisco IOS Release12.0(5)WC2 以下が稼働する Catalyst 2900 XL または Catalyst 3500 XL メンバー スイッチ
- Cisco IOS Release12.0(5)WC2 以下が稼働する Catalyst 2950 メンバー スイッチ

この制限の詳細については、リリース ノートを参照してください。

次のスイッチは CMS での読み取り専用モードをサポートしません。

- Catalyst 1900 および Catalyst 2820 スイッチ
- 4 MB CPU DRAM 搭載の Catalyst 2900 XL スイッチ

読み取り専用モードでは、これらのスイッチは利用不可能なデバイスとして表示され、CMS で設定することはできません。

CMS の設定

ここでは、CMS に関する要件および設定情報について説明します。

- [CMS の要件 \(p.3-8\)](#)
- [クロスプラットフォームに関する考慮事項 \(p.3-10\)](#)
- [CMS の起動方法 \(p.3-12\)](#)

CMS の要件

ここでは、CMS を稼働するためのハードウェアおよびソフトウェアの要件について説明します。

- [最低限必要なハードウェア構成 \(p.3-8\)](#)
- [オペレーティングシステムおよびブラウザのサポート \(p.3-9\)](#)
- [CMS の Plug-in 要件 \(p.3-9\)](#)
- [HTTP ポートの指定 \(デフォルトでない設定の場合のみ\) \(p.3-10\)](#)
- [認証方式の設定 \(デフォルトでない設定の場合のみ\) \(p.3-10\)](#)



(注) CMS を起動すると、ソフトウェア要件が CMS スタートアップ レポートによって、自動的に確認されます。詳細については、[CMS の起動方法 \(p.3-12\)](#) を参照してください。

最低限必要なハードウェア構成

最低 PC 要件は、64 MB の DRAM を搭載した 233 MHz で稼働する Pentium プロセッサです。最低 UNIX ワークステーション要件は、64 MB の DRAM を搭載した 1 MHz で稼働する Pentium プロセッサです。

表 3-2 は、CMS を稼働させる最低プラットフォームのリストです。

表 3-2 最低限必要なハードウェア構成

OS	プロセッサ速度	DRAM	色数	解像度	フォントサイズ
Windows NT ¹	Pentium 300 MHz	128 MB	65,536	1024 x 768	小
Solaris 2.5.1 以上	SPARC 333 MHz	128 MB	アプリケーション用のほとんどの色	—	小 (3)

1. サービス パック 3 以上が必要です。

オペレーティング システムおよびブラウザのサポート

表 3-3 に記載されているオペレーティング システムおよびブラウザを使用して、CMS インターフェイスにアクセスできます。セッションが開始されると、CMS ではブラウザのバージョンをチェックして、このブラウザがサポートされているか確認します。

表 3-3 サポート対象のオペレーティング システムおよびブラウザ

オペレーティング システム	最低サービス パックまたはパッチ	Netscape Communicator ¹	Microsoft Internet Explorer ²
Windows 98	再版	7.1	5.5 または 6.0
Windows NT 4.0	サービス パック 3 またはそれ以上	7.1	5.5 または 6.0
Windows 2000	なし	7.1	5.5 または 6.0
Windows XP	なし	7.1	5.5 または 6.0
Solaris 2.5.1 以上	OS および Motif ライブラリ パッチ 103461-24 用の Sun が推奨するパッチ クラスタ	7.0	サポートされません

1. Netscape Communicator バージョン 6.0 はサポートされません。
2. Internet Explorer 5.5 では、サービス パック 1 以上が必要です。

CMS の Plug-in 要件

CMS を実行するには、Windows および Solaris からブラウザの Plug-in をインストールする必要があります。

Windows

Windows で CMS を実行するには、CMS Plug-in が必要です。この Plug-in をダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/pcgi-bin/tablebuild.pl/CMS-Plug-In-Win-1-0>

この Plug-in には、CMS をトラブルシューティングする、または Windows の CMS から CLI (コマンドライン インターフェイス) コマンドを表示するのに使用できるコンソール ウィンドウが含まれます。CMS が稼働しているときに、CMS コンソールを表示または非表示にするには、**F2**を押します。CMS が送信する CLI コマンドを表示または非表示にするには、**F3**を押します。



(注) ウェブブラウザのアップグレードおよび CMS Plug-in のインストールの両方を行う必要がある場合は、先にブラウザをアップグレードしてください。CMS Plug-in をインストールしてから、ブラウザをアップグレードすると、Plug-in は新しいブラウザで登録されません。



(注) Solaris 上に CMS Plug-in をインストールしないでください。

Solaris

Solaris で CMS を実行するには、Java 1.4.1-02 Plug-in が必要です。この Plug-in をダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

www.cisco.com/public/sw-center/lan/java/1.4.1-02.html

Java Plug-in をインストールするには、README_FIRST.txt ファイルの手順を実行します。Java Plug-in のインストールを完了したあと、ブラウザを終了して、再起動する必要があります。

クロスプラットフォームに関する考慮事項

CMS を使用してスイッチ クラスタを管理する場合は、クラスタでは、異なる Cisco IOS リリースを使用するスイッチ モデルを混在できること、および以前の Cisco IOS リリースおよび異なるスイッチ プラットフォームで稼働する CMS の表示や機能は、この Cisco IOS リリースの CMS とは異なる場合があることに注意してください。

クラスタメンバーについて **Device > Device Manager** を選択すると、新しいブラウザセッションが開始され、そのスイッチの CMS のバージョンが表示されます。

Cisco IOS リリースとスイッチ プラットフォーム間での CMS の違いを、次の例で示します。

- Cisco IOS Release 12.0(5)WC2 以下または Cisco IOS Release 12.1(6)EA1 以下が稼働する Catalyst スイッチでは、これらのソフトウェア リリースの CMS のバージョンは、このリリースと外観は似ていますが、同じではありません。たとえば、このリリースでの Topology View は、以前のソフトウェア リリースの Topology View または Cluster View と同じではありません。
- Catalyst 1900 および Catalyst 2820 スイッチ上の CMS は、Switch Manager と呼ばれます。これらのスイッチでは、クラスタ管理オプションは利用できません。これは CMS の最も古いバージョンです。

CMS バージョンの詳細については、スイッチとその Cisco IOS リリース専用のマニュアルを参照してください。

CMS への HTTP アクセス

CMS は、HTTP プロトコル（デフォルトは、ポート 80）およびデフォルトの認証方式（インーブルパスワード）を使用して、任意のイーサネット ポート経由でスイッチと通信し、標準のウェブブラウザでのスイッチ管理を可能にします。

特定の（デフォルトでない）HTTP ポートを設定していない場合、およびスイッチへのアクセスにインーブルパスワード（またはパスワードなし）を使用している場合は、[CMS の表示 \(p.3-12\)](#) に進みます。

HTTP ポートの指定（デフォルトでない設定の場合のみ）

HTTP ポートを変更する場合は、ブラウザの **Location** または **Address** フィールドに IP アドレスを入力するとき、新しいポート番号を指定する必要があります（たとえば、http://10.1.126.45:184 の場合、184 は新しい HTTP ポート番号です）。接続対象のポート番号を書き留めておくことが必要です。スイッチの IP 情報を変更する場合は、注意してください。

認証方式の設定（デフォルトでない設定の場合のみ）

デフォルトの認証方式（インーブルパスワード）を使用しない場合は、スイッチで使用される認証方式で、HTTP サーバインターフェイスを設定する必要があります。

HTTP サーバインターフェイスを設定するには、インーブル EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	説明
ステップ 1	<i>configure terminal</i>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<i>ip http authentication {enable local tacacs}</i>	使用する認証タイプの HTTP サーバ インターフェイスを設定します。 <ul style="list-style-type: none">• <i>enable</i> イネーブル パスワードは、デフォルトの HTTP サーバ ユーザの認証方式です。• <i>local</i> Cisco ルータまたはアクセス サーバで定義された、ローカル ユーザのデータベースが使用されます。• <i>tacacs</i> TACACS サーバが使用されます。
ステップ 3	<i>end</i>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<i>show running-config</i>	設定を確認します。

HTTP サーバ インターフェイスの設定が完了してから、CMS アクセス ページを表示します(「[CMS の起動方法](#)」[p.3-12] を参照)。

CMS の表示

ここでは、CMS の表示について説明します。

[CMS の起動方法 \(p.3-12\)](#)

[Front Panel View \(p.3-14\)](#)

[Topology View \(p.3-16\)](#)

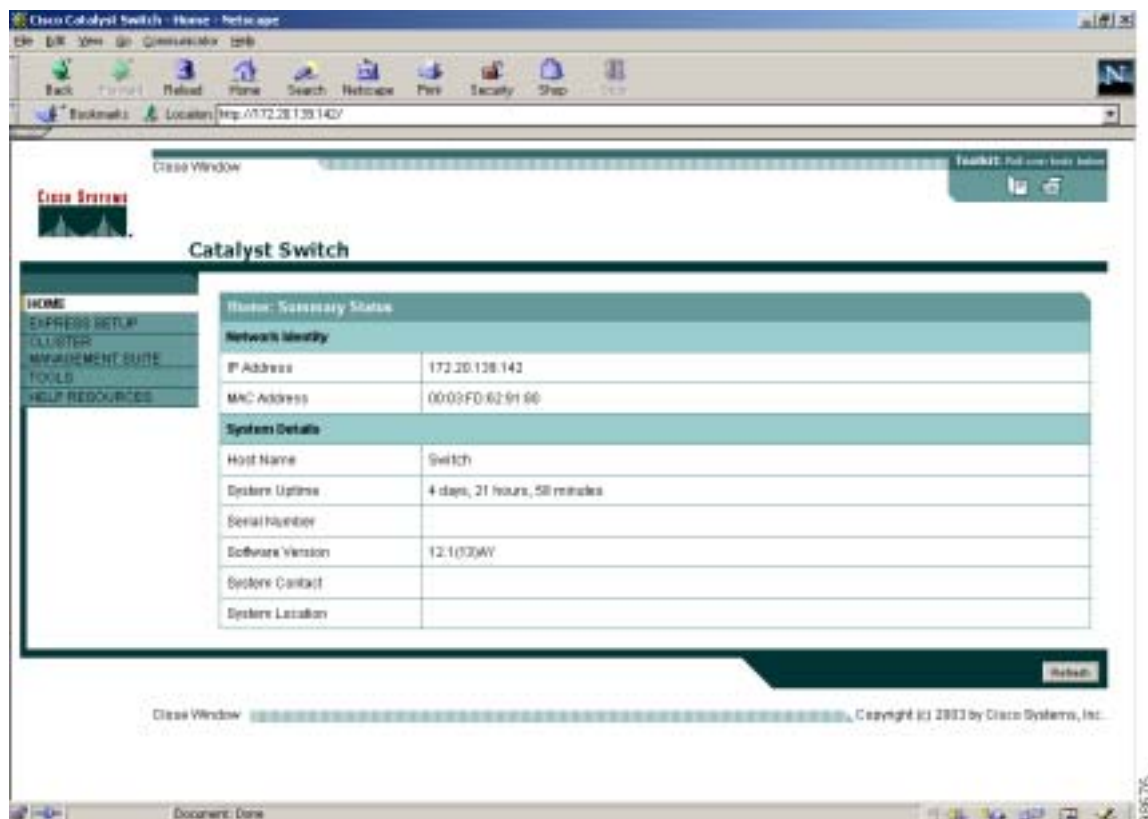
CMS の起動方法

スイッチ アクセス ページを表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 ブラウザにスイッチの IP アドレスを入力して、**Return** を押します。
- ステップ 2 プロンプトが表示されたら、ユーザ名およびパスワードを入力します。スイッチにユーザ名が設定されていない場合（デフォルト）は、パスワード フィールドにイネーブル パスワードのみを入力します（イネーブル パスワードが設定されている場合）。

スイッチ ホーム ページが表示されます（[図 3-4](#) を参照）。

図 3-4 スイッチ ホーム ページ



スイッチ ホーム ページには、次のタブがあります。

- Express Setup Express Setup のページを開きます。



(注) Express Setup を使用すると、設定されていないスイッチに IP アドレスを割り当てることができます。詳細については、ハードウェア インストールガイドを参照してください。

- Cluster Management Suite CMS を起動します。
- Tools Telnet、Extended Ping、および **show interfaces** イネーブル EXEC コマンドなどの診断およびモニタリング ツールにアクセスします。
- Help Resources シスコの Web サイト、テクニカル ドキュメント、TAC へのリンクが掲載されています。

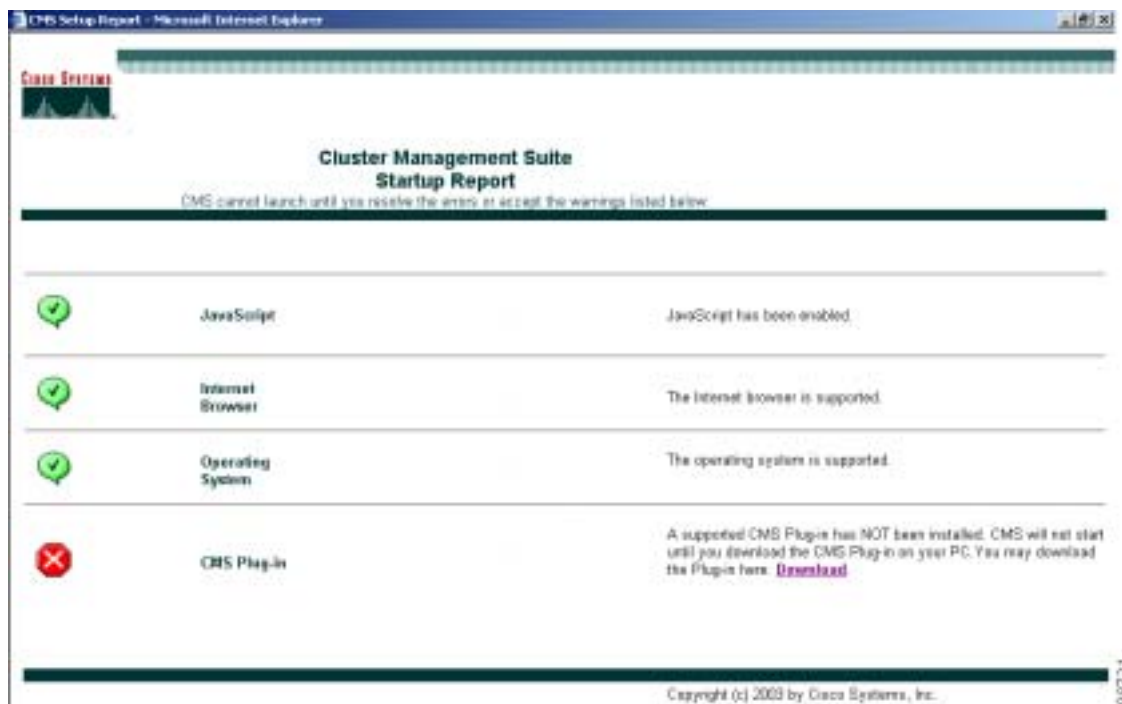


(注) CMS を起動するごとに、CMS がブラウザにダウンロードされます。PC またはワークステーションに CMS を永久的にインストールすることにより、CMS のロード速度を高速化することができます。**CMS** から、> **Installation and Distributions** を選択して、**Install** をクリックします。CMS はローカルにインストールされるので、次の起動時にはより高速でロードされます。

ステップ 3 CMS インターフェイスを起動するには、**Cluster Management Suite** をクリックします。CMS Startup Report を実行して、ご使用の PC またはワークステーションが CMS を適切に稼働できるかを確認します。

サポート対象ではないオペレーティングシステム、ウェブブラウザ、CMS Plug-in または Java Plug-in を稼働している場合、または Plug-in がイネーブルの場合は、CMS Startup Report が表示されず (図 3-5 を参照)。

図 3-5 CMS Startup Report



CMS Startup Report は、PC またはワークステーションの適切な設定手順にリンクしています。CMS Startup Report が表示された場合は、リンクをクリックして、PC またはワークステーションの設定手順を実行してください。



(注) Windows 上で、ウェブブラウザのアップグレードおよび CMS Plug-in のインストールの両方を行う必要がある場合は、先にブラウザをアップグレードしてください。CMS Plug-in をインストールしてから、ブラウザをアップグレードすると、Plug-in は新しいブラウザで登録されません。



(注) ご使用の PC またはワークステーションで、CMS が適切に設定されている場合は、CMS Startup Report は表示されません。

PC またはワークステーションが適切に設定されると、CMS が起動します。

Front Panel View

非コマンド スイッチから CMS を起動した場合は、デフォルトで Front Panel View が表示され、特定のスイッチの前面パネル イメージのみが Front Panel View に表示されます。

コマンド スイッチから CMS を起動する場合は、ツール バーの Front Panel ボタンをクリックして Front Panel View を表示することができます (図 3-6 を参照)。

図 3-6 ツールバー

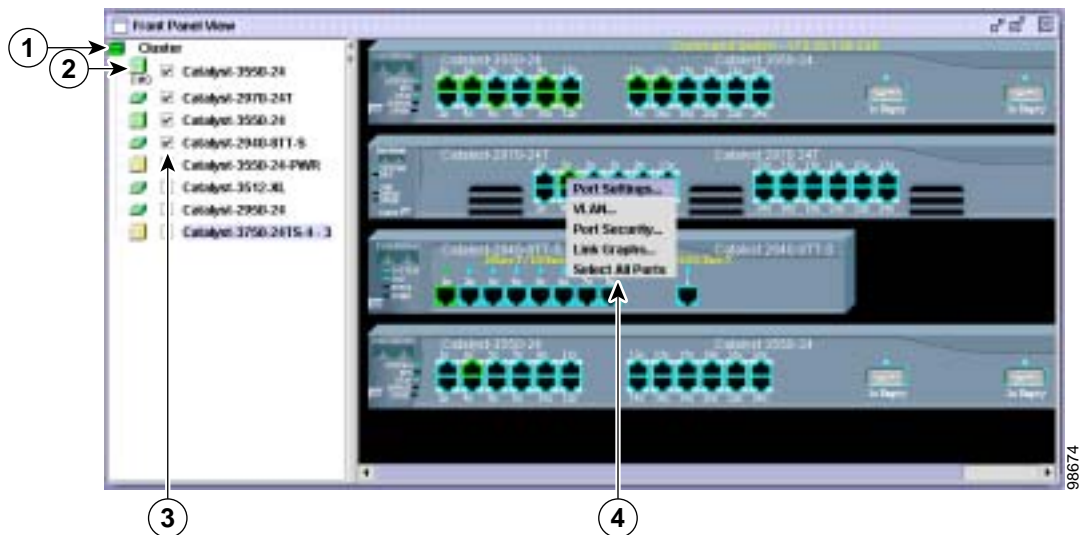


1	Front Panel View ボタン	2	Topology View ボタン
---	----------------------	---	-------------------

Front Panel View では、コマンドスイッチおよび選択された他のスイッチの前面パネルイメージが表示されます（図 3-7 を参照）。また、さらに表示するスイッチを選択することもできます。

Front Panel View に表示されるスイッチを選択および設定することができます。表示されているスイッチをドラッグして、再度配置することができます。スイッチ ポート上で右クリックすることにより、このポートを設定できます。

図 3-7 Front Panel View およびポートのポップアップメニュー



1	クラスタツリー	3	スイッチを表示するチェックボックス
2	コマンドスイッチ	4	ポート設定のポップアップメニュー



(注) 図 3-7 に、Catalyst 3550 スイッチをコマンドスイッチとする場合のクラスタを示します。コマンドスイッチとしての Catalyst 3750 スイッチがあるクラスタで、メンバーとなるスイッチのリストについては、リリース ノートを参照してください。



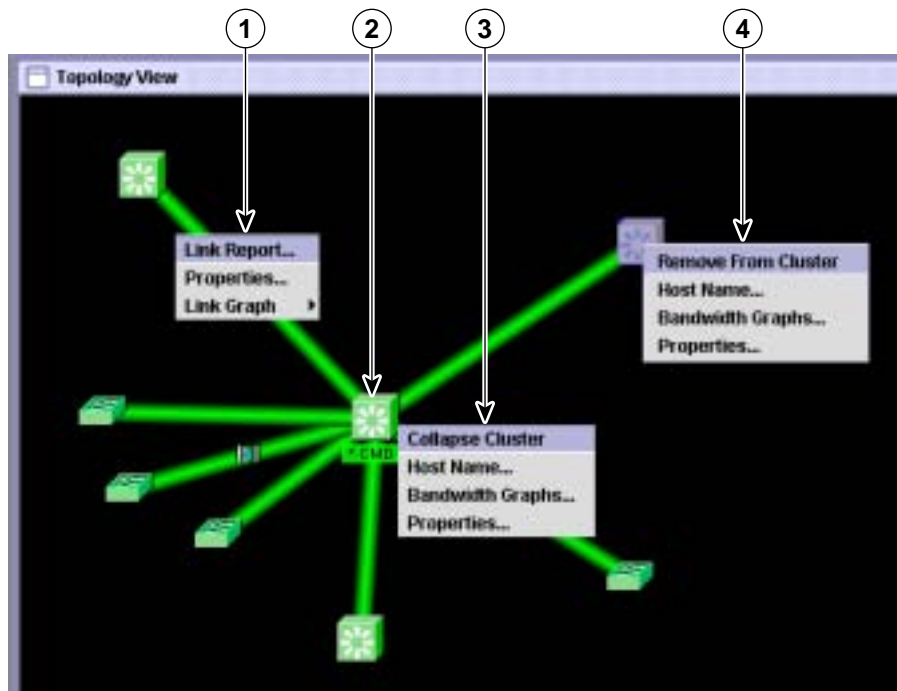
(注) Catalyst 1900 および Catalyst 2820 スイッチでは、CMS は Device Manager と呼ばれます（または、Switch Manager）。Device Manager は個々のスイッチの設定用です。クラスタの特定のスイッチに Device Manager を選択すると、別の CMS セッションが起動されます。Device Manager インターフェイスは、Catalyst スイッチ プラットフォームごとに変えることができます。

Topology View

CMS をコマンド スイッチから起動すると、デフォルトで Topology View が表示されます。(このビューは、コマンド スイッチから CMS が起動されたときのみ、利用できます)。

ツールバーで Topology ボタンをクリックすると、Topology View でコマンド スイッチ (*CMD*ラベルで表示) およびこれに接続するデバイスが表示されます(図 3-8 を参照)。スイッチまたはリンクアイコン上で右クリックすることにより、このアイコンのメニューを表示できます。

図 3-8 Topology View およびデバイスのポップアップ メニュー



1	リンクのポップアップ メニュー	3	コマンド スイッチのポップアップ メニュー
2	コマンド スイッチ	4	クラスタ メンバーのポップアップ メニュー



(注) 図 3-8 に、複数のポップアップ メニューを示します。CMS では、一度に 1 つのポップアップ メニューだけを表示します。

Topology View は、スイッチ クラスタ内でのデバイスの接続や、スイッチ クラスタと他のクラスタおよびデバイスとの接続を表示します。このビューでクラスタ メンバーの追加や削除ができます。このビューには、ネットワーク トポロジーの詳細に関する 2 つのレベルがあります。

- **Expand Cluster** クラスタのアイコンを右クリックして **Expand Cluster** を選択すると、Topology View によりクラスタの詳細が表示されます。このビューには、クラスタ内のコマンド スイッチおよびメンバー スイッチが表示されます。また、クラスタに参加可能な候補スイッチも表示されます。このビューには、近隣スイッチ クラスタについての詳細は表示されません。
- **Collapse Cluster** コマンド スイッチのアイコンを右クリックして **Collapse Cluster** を選択すると、クラスタが縮小され、1 つのアイコンで表示されます。このビューでは、他のクラスタ、候補スイッチ、およびクラスタに参加する条件を満たしていないデバイス (ルータ、アクセス ポイント、IP Phone など) とクラスタの接続を表示します。



(注) Topology View で表示されるのは、アクセスする特定のコマンドスイッチまたはメンバー スイッチのスイッチ クラスタとネットワーク ネイバに限られます。別のスイッチ クラスタを表示するには、そのクラスタのコマンドスイッチまたはメンバー スイッチにアクセスする必要があります。

CMS のアイコン

CMS で使用できるデバイスおよびリンク アイコンの詳細なリストについては、CMS メニュー バーから **Help > Legend** を選択してください。

次の作業

- コマンド スイッチおよびメンバー スイッチの詳細については、[第 6 章「スイッチのクラスタ設定」](#)を参照してください。
- 管理作業の詳細については、[第 7 章「スイッチの管理」](#)を参照してください。
- このリリースの CMS の新しい機能のリストについては、オンライン ヘルプで **Help > What's New** をクリックしてください。

このマニュアルの以降の章では、このリリースでサポートされているソフトウェア機能の CLI (コマンドライン インターフェイス) 手順について説明します。CMS の操作手順とウィンドウの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

